

## 組合士制度を再認識

10月14日(金)山形市「ホテルキャッスル」において、70余名が出席し第22回東北・北海道ブロック中小企業組合士協議会研修交流会が開催された。

はじめに各道県組合士会の活動状況が発表され、組合が活力を発揮するためには、事業運営の基礎となる組合事務局整備が不可欠であり、組合士制度の重要性を再確認した。引き続き、「心の宝ものを次世代へ」～人を愛し、自然を愛し、生きる喜びを味わう、卒業のない学校。～と題し、村山市樽石大学学長松田清男氏まつだ せいなんが基調講演した。自分が祖父からもらった宝もの、それは何でも物やお金が万能と錯覚するような時代にお金では買えない「心の宝もの」で、それら孫たちの世代に伝えたいと語った。



活動状況発表



松田学長

## まちづくりについて 市民と語り合うフォーラム開催!

10月29日(土)山形市立第一小学校において、「市民公開まちづくりフォーラム」が約80名の市民が参加し開催された。昨年の9月に開催された「全国リサイクル商店街サミット山形大会」を機に七日町商店街青年会(持続可能な商店街・地域づくり研究会菊地健太郎代表)と県、山形市が研究会を組織し、持続可能なまちづくりについて研究、実践を重ねてきた。第一部では、渋滞緩和のため郊外に車を止めBDF(商店街の飲食店からでた廃食用油をリサイクルした燃料)バスを使って中心商店街に人を運ぶパーク&ライドの実験、商店街のネットワーク使って他地域との流通をはかる研究や地元の小学生や住民を対象に行ったアンケートの結果等各部会の報告があった。第二部のパネルディスカッションでは、株式会社コンセプトワークショップ代表取締役佐藤修氏をディネーターに、山形市長の市川昭男氏、元保育士で主婦の高橋真美氏、山形大学教育学部環境教育専攻4回生の近野貴衣子氏、そして七日町商店街青年会菊地健太郎氏をパネリストに、環境や地域資源、人の循環の視点から地域づくりについて意見交換が行われた。

